

5 持続可能な社会の構築に向けた地域づくり・人づくり

5 - 1 多様な環境教育・環境学習の推進

1 環境教育の推進体制(森林環境総務課)

(1)やまなし環境教育等推進行動計画

環境教育の果たす役割がますます重要になっていることから、平成21年3月に策定した「やまなし環境教育等実践指針」を見直し、新たに「やまなし環境教育等推進行動計画」を平成25年3月に策定しました。

計画では、県民や学校、民間団体、事業者が様々な環境保全活動を活発に展開できるよう、各主体の役割に応じ、様々な場における環境教育に関する具体的な取り組みを体系的に分かりやすく整理することにより、効果的な環境教育の実践に資するよう配慮しました。

(2)環境教育の推進体制

本県では、各部署にわたり様々な環境教育事業を展開しています。その体制と主な実施内容は右のとおりです。

県の環境教育推進体制と主な実施内容

森林環境部	
森林環境総務課	「山の日」啓発活動推進等
	環境活動の推進
	やまなしクリーンキャンペーンの展開
	やまなしエコライフ県民運動等各種普及啓発
	ごみの減量化、リサイクル等の推進
大気水質保全課	大気・水質保全等公害防止に係る普及啓発
みどり自然課	自然保護や緑化推進等に係る普及啓発
	「八ヶ岳環境と文化のむら」の運営
森林整備課	森林整備、森林・山村地域の活性化、森林災害予防の普及啓発
林業振興課	植樹運動、林業体験等を通じた林業普及
県有林課	「森林文化の森」の整備と利用促進
森林総合研究所	森林・林業に関する調査・研究 森の教室等の実施
各林務環境事務所	地域における環境保全活動の推進
教育庁	
義務教育課	エネルギー教育推進事業の実施
社会教育課	フロンティア・アドベンチャー「やまなし少年海洋道中」の実施
その他の部局	
生涯学習文化課	やまなしまなびネットワークシステムの運営
エネルギー政策課	省エネルギー、クリーンエネルギーの普及啓発
企業局電気課	クリーンエネルギー学習講座等の実施
富士山科学研究所	環境教育事業の実施 指導者の育成等

2 環境教育の各種施策

(1)富士山科学研究所における環境教室等(私学・科学振興課)

富士山科学研究所の環境教育部門では、環境問題を地球規模で考え、身近なことから実践することの大切さを学習する「環境教室」、「自然体験講座」、「地域環境観察会」や企画展示など、幅広い環境教育事業を実施しています。

環境教育事業の概要(平成28年度)

事業名	H28実績	備 考
環境教室	団体を対象として随時開催	
自然体験講座	2回(半日)	・体験活動を取り入れながら、身のまわりのものを題材とした内容で開催
地域環境観察会	7回(半日または1日)	・地域の身近な自然などの観察会
富士山科学講座		・科学的なデータや知見を取り入れ、わかりやすい内容で開催
企画展示	「富士北麓のチョウ～チョウからひもとく富士山の多様性～」 3/22～6/22 「火山としての富士山」 7/9～11/6 「楽しい登山のススメ」 11/28～3/17	・研究員監修のもと、研究成果や研究内容に関連した展示を実施

(2) こどもエコクラブ活動の支援(森林環境総務課)

次代を担う子どもたちが、地域において楽しく自発的に環境学習及び環境保全活動を行う「こどもエコクラブ」の活動を支援し、その内容の充実を図っています。

県内の加入状況(平成29年3月31日現在)

・クラブ数...4 ・会員数...184人 (全国:クラブ数...2,013 会員数...113,920人)

事業内容

・こどもエコクラブ全国フェスティバル

県内からは和泉エコクラブ(甲府市)が参加 同フェスティバルに展示する壁新聞を提出。

・こどもエコクラブ事業の広報

新規登録を促すため、イベントでのチラシの配布やホームページに掲載。

(3) 体験の機会の場の認定(森林環境総務課)

平成24年10月に施行された「環境教育等促進法」に基づく「体験の機会の場」として、公益財団法人キープ協会の施設等を平成24年12月に認定しました。全国に先駆けた第1号の認定です。

(4) 学校林の活用推進(みどり自然課)

学校週5日制の実施や総合的な学習の時間の創設に伴い、森林の教育的利用に対するニーズが高まってきている中で、児童・生徒の森林環境教育の場として学校林を活用するために必要な指導助言や情報提供を行っています。また、活動の活発化を図るため平成19年度には「森林環境教育の手引き～学校林活用マニュアル～」を発行しました。

(5) どんぐりクラブ育成事業(みどり自然課)

小学生以下の子ども達に、山や森、公園に落ちているどんぐりを拾う活動を通じて、緑に親しみ、森林を大切にすることを育んでもらうことを目的として実施しています。また、集まったどんぐりは環境教育等への活用を図るため、県緑化園で養成し、希望した小中学校等に配付しています。

平成28年度は409人の子ども達が会員となり、集めたどんぐりの数に応じてシモツケとウツギを配付しました。

(6) エネルギー教育推進事業(義務教育課)

啓発のための「リーフレット」の作成・配付

県下の小学校4年生から中学校3年生までの児童生徒及び教職員を対象に、日常生活で自ら実践できる省エネ・省資源活動等を書き込める「リーフレット」を作成・配付し、電気エネルギーをつくり出す方法や新エネルギーについての理解の促進と家庭への啓発を図っています。

エネルギー教育関連教材の貸し出し

エネルギーを実際につくり出す体験等を行うことにより、エネルギー問題等について理解の促進が図れるよう、学校では購入しにくいエネルギー教育関連教材を各教育事務所に備え、貸し出しを行っています。

エコ活動推進キャンペーン ～地球のエネルギーについて考えよう～ の実施

11月から1月中旬までをエネルギー教育推進の強化月間とし、県下の全公立小中学校で一斉に省エネ・省資源活動の取組や発電・新エネルギーについての学習活動等を行っています。

ホームページの活用・更新

ホームページ「小中学生のためのやまなしの環境教育」を通じて、各学校の取組の様子や関連事業の紹介、環境教育・エネルギー教育の進め方、エネルギー教育関連教材等について情報発信を行っています。

(7) 青少年長期自然体験活動(フロンティア・アドベンチャー「やまなし少年海洋道中」)(社会教育課)

物質的な豊かさに伴う便利な生活環境の中ではなくまれている青少年に、本県にはない海洋における大自然の中で、野外活動生活を長期間実施することにより、青少年に心の豊かさや、たくましさをはぐむ事業を実施しています。

実施に当たっては、美しい海洋の自然に触れることにより地球環境の大切さを感じ、人と自然との共存について考える機会をつくるとともに、生活環境の異なる地域の人々との交流を進めることにより、人と人との繋がりを考える機会としています。

経 緯 昭和63年度より事業を開始し、平成28年度で29回目を迎えた。

平成28年度の実施内容

参加者	県内の中学生49名(男子25名、女子24名)		
実施日	事前説明会	平成28年6月19日	日帰り (ことぶき勸学院)
	事前研修会	平成28年7月 9日～10日	1泊2日 (県立愛宕山少年自然の家)
	現地研修	平成28年8月 1日～9日	8泊9日 (東京都八丈島八丈町垂戸)
	事後研修会	平成28年8月17日	日帰り (県立八ヶ岳少年自然の家)
体験内容	・洋上体験(船での寝食、漁船クルージング、外洋の観察等) ・自然体験(キャンプ生活、スノーケリング、野外炊事、サバイバル踏破、ピバーク等) ・交流体験(八丈島の小中学生、住民の方等) ・自主企画体験(八丈島の文化学習・体験、サバイバル踏破等) ・自然環境体験(全期間での衣食住、天候、海洋及び海洋性の自然等)		

(8) やまなしエコティーチャーの派遣(森林環境総務課)

地域における環境保全意識の高揚を図り、地域の環境保全活動に資するため、環境に関する知識や豊富な経験のある人材を環境学習指導者(やまなしエコティーチャー)として登録し、県内の民間団体等が主催する環境保全に関する研修会等に派遣しました。

やまなしエコティーチャー登録名簿

(平成28年10月1日現在)

自然環境分野		氏名	役職名
氏名	役職名	草野香寿恵	環境省環境カウンセラー
跡部治賢	NPO法人自然とオオムラサキに親しむ会会長	河野昭三	甲府市役所嘱託職員(平成27年4月～)
齋藤一紀	(公財)日本鳥類保護連盟専門委員	黒田光秀	株式会社総合リサイクルセンター黒田 代表取締役
流石皇甫	美花里自然教室 主宰	窪田真弓	山梨県地球温暖化防止活動推進員
清藤 城宏	(公財)オイスカ緑化技術参事	小林敏樹	北九州市立大学地域戦略研究所/地域創生学 郡 准教授
関 敦隆	子ども自然体験クラブ エヴォルヴ代表	齊藤尚子	環境省環境カウンセラー
竜沢信子	やまなし環境会議会員	櫻田 清	NPO法人協働で素敵にまちづくり南アルプス共 和国理事長
田中 収	大月短期大学名誉教授	櫻林いさを	環境省環境カウンセラー
内藤邦雄	NPO法人みどりの学校副理事長	佐藤悦子	山梨県地球温暖化防止活動推進員
中川雄三	動物写真家,日本野鳥の会富士山麓支部副支部長	澤登早苗	恵泉女学園大学教授
中込司郎	山梨県植物研究会名誉会員	志沢美香	甲府市地球温暖化防止活動推進員
中村 司	山梨大学名誉教授	篠原 充	(一社)山梨県一般廃棄物協会会長
野澤健夫	HOOKかんきょう'協育'事務所代表	島崎洋一	山梨大学准教授
堀内美千恵	自然環境保全の会会長	清水喜美男	環境省環境カウンセラー
宮本克己	環境省環境カウンセラー	竹井 基	山梨県地球温暖化防止活動推進員
山田健一郎	山梨県地球温暖化防止活動推進員	鶴田和彦	環境省環境カウンセラー
山本紘治	山梨科学アカデミー会員	中村伯男	環境省環境カウンセラー
依田正直	日本野鳥の会甲府支部名誉会長	廣瀬隆博	(有)サンライト代表
渡辺尚希	アウトバック・アドベンチャーーツアーズ代表	藤巻眞史	(株)田丸 会長
生活環境分野		宮内厚子	山梨県地球温暖化防止活動推進員
氏名	役職名	森野健治	山梨県地球温暖化防止活動推進員
芦澤公子	NPO法人みどりの学校理事長	望月あけみ	NPO法人みどりの学校事務局長
石井迪男	山梨環境カウンセラー協会会長	山坂右内	山梨科学アカデミー会員
岸いず美	光の森こども園主任	渡辺節子	山梨県地球温暖化防止活動推進員

平成28年度実績

	月・日	主催団体	テーマ	エコティーチャー	参加人数
1	6月8日	笛吹市立石和第四保育所	環境教室	岸 いずみ	82
2	6月23日	養護老人ホーム和吉寮	地球温暖化から学んだこと	櫻林 いさを	50
3	6月28日	山梨学院大学法学部	民間企業の環境対策	河野 昭三	95
4	7月1日	北杜市立須玉中学校	発電体験とエコクイズ	島崎 洋一	55
5	7月21日	中央市立田富第一保育園	エコ学習会 環境教育について知る	森野 健治	60
6	7月22日	中央市立田富第二保育園	エコ学習会	森野 健治	34
7	7月22日	舞鶴小放課後児童クラブ	地球温暖化の影響は？	櫻林 いさを	50
8	7月25日	中央市立田富第三保育園	エコ学習会	森野 健治	40
9	7月27日	韮崎市中央公民館	韮崎市甘利山リトルキャンプ事業	斉藤 一紀	29
10	7月28日	中央市立豊富保育園	エコ学習会	森野 健治	47
11	7月29日	韮崎市立韮崎西保育園	親子環境学習会	草野 香寿恵	30
12	8月3日	中央市立玉穂保育園	エコ学習会	森野 健治	100
13	8月3日	甲斐市社会福祉協議会	環境学習会	山田 健一郎	18
14	8月4日	中央市立田富北保育園	エコ学習会	森野 健治	46
15	8月6日	宗教法人 法幢院	食と「いのち」	流石 皇甫	22
16	8月18日	さわやか第1・第2教室	再生可能エネルギー体験学習会	芦澤 公子	60
17	8月19日	大里小放課後児童クラブ	みんなできれいな地球にしよう	櫻林 いさを	65
18	8月22日	石田地区青少年推進協議会	地域の子ども達を交えての環境学習会	芦澤 公子	30
19	8月22日	甲運小放課後児童クラブ	みんなできれいな地球にしよう	櫻林 いさを	38
20	8月22日	中道北小放課後児童クラブ	みんなできれいな地球にしよう	櫻林 いさを	41
21	8月23日	相川小放課後児童クラブ	みんなできれいな地球にしよう	櫻林 いさを	24
22	8月24日	里垣小放課後児童クラブ	みんなできれいな地球にしよう	櫻林 いさを	40
23	8月24日	北新小放課後児童クラブ	みんなできれいな地球にしよう	櫻林 いさを	25
24	8月27日	甲府市小中学校PTA連合会	土曜学習	芦澤 公子	27
25	9月15日	みさかこども園	ストップ！地球温暖化 こどもたちの未来のために今できること	森野 健治	55
26	9月27日	韮崎市立韮崎藤井保育園	環境学習会	篠原 充	30
27	10月6日	エコ環境練染甲斐	学童芋掘り体験教室	佐藤 悦子	50
28	10月26日	南アルプス市立白根百田小学校	環境集会 山梨から考える海の自然	野澤 健夫	121
29	10月26日	笛吹市立御坂西保育所	環境教室	草野 香寿恵	24
30	11月1日	笛吹市立石和第四保育所	環境教室	櫻林 いさを	80
31	11月11日	禾生第一小学校	エネルギー問題について考えよう	島崎 洋一	38
32	11月14日	笛吹市立石和第1保育所	はがきづくり	草野 香寿恵	15
33	11月16日	中央市立玉穂南小学校	発電体験とエコクイズ	島崎 洋一	54
34	11月17日	大和ハウス工業 山梨支所	地球温暖化について 身近に取り組める省エネ活動	望月 あけみ	63
35	1月7日	甲府駅北口まちづくり委員会	環境について	櫻林 いさを	150
36	1月23日	白根東小学校	森林の働きを知ろう	清藤 城宏	66
37	1月23日	塩山高等学校	エネルギーや環境問題について考えよう	廣瀬 隆博	10
38	2月5日	田中区自治会	エコ・防災研修会	清水 喜美男	35
39	2月21日	(株)アイメック	民間企業の環境対策	河野 昭三	15
	39	うち新規派遣数 10		総数	1,914

(9) やまなし環境学習プログラムの策定 (森林環境総務課)

地球温暖化対策を推進していくため、平成23年3月に太陽光発電等自然エネルギーの分野に関し、小学校中学年用・小学校高学年用・中学校用の3件のプログラムを策定しました。子どもたちがそれぞれの発達段階において、体験的活動を中心にそこから得られる自然環境や社会問題について「学び」「話し合い」「行動に移す」ことを効果的に行うことができるよう構成されている実践的な指導用手引書です。

対象	プログラム	内容
小学校中学年	「やまなしのエコ大作戦」	体験やクイズを通じ、エネルギーについて知り、エコライフ宣言をする。
小学校高学年	「二酸化炭素ゼロやまなし」	山梨県の温暖化対策の目標を知り、身近なエコの方法を川柳で表現する。
中学校	「ソーラー王国やまなし」	山梨県のエネルギー計画を知り、未来のエネルギーの使い方を考える。

5 - 2 人材の育成

1 富士山科学研究所の取り組み (私学・科学振興課)

山梨県富士山科学研究所では、環境問題や環境教育への理解をより一層深めることを目的に、また、将来的には地域の環境活動を推進しうる人材を養成する第一歩となるよう、環境生涯学習プラン「富士山科学カレッジ」及び「富士山科学カレッジ大学院」、「自然観察員育成研修」を開講しています。平成28年度の実績は次のとおりです。

富士山科学カレッジ(受講生:33名)			
種別	内容	講師	実施日
開講式	開講式・カレッジプログラムの確認	環境教育スタッフ	4/9
	基礎講座「富士山の自然」	環境教育スタッフ	4/9
必修講座	富士山科学講座1(基礎編)	内山 高(当研究所 主幹研究員)	4/23
	富士山科学講座2(基礎編)	中野隆志(当研究所 主幹研究員)	5/21
	富士山科学講座3(基礎編)	大脇 淳(当研究所 研究員)	6/18
	富士山科学講座4(応用編)	山本真也(当研究所 研究員) 長谷川達也(当研究所 研究管理幹)	9/24
	富士山科学講座5(応用編)	北原正彦(当研究所 副所長) 安田泰輔(当研究所 研究員)	10/22
	富士山科学講座6(応用編)	池口 仁(当研究所 主任研究員) 山本清龍(岩手大学農学部准教授 元当研究所客員研究員)	11/19
	臨地講座 1つを選択		
野鳥観察会	渡辺信介・水越文孝・中川雄三(日本野鳥の会富士山麓支部)	5/7	
山野草観察会	戸沢一宏(森林総合研究所主任研究員)	5/15	
富士山五合目植物観察会	丸田恵美子(神奈川大学教授) 山村靖夫(茨城大学教授 当研究所客員研究員)	7/23・7/28	
富士山火山観察会	中野隆志(当研究所 主幹研究員) 安田泰輔(当研究所 研究員) 内山 高(当研究所 主幹研究員) 吉本充宏(当研究所 主任研究員) 山本真也 (当研究所 研究員) 常松佳恵(当研究所 研究員) 馬場 章(当研究所 研究員)	8/28・9/1	
選択講座	3講座中1つ以上選択		3/23～6/22
	1) 企画展～富士山麓のチョウ～		7/9～11/6
	2) 企画展～火山としての富士山～		4/25～5/29、 7/9～10/10
3) 森のガイドウォーク	自然解説員(ボランティアガイド)		
修了式	修了証書授与		11/19

富士山科学カレッジ大学院(受講生:25名)			
種別	内容	講師	実施日
開講式	開講式・大学院プログラムの確認	環境教育スタッフ	4/3
必修講座	富士山科学講座1(基礎編)	内山 高(当研究所 主幹研究員)	4/23
	富士山科学講座2(基礎編)	中野隆志(当研究所 主幹研究員)	5/21
	富士山科学講座3(基礎編)	大脇 淳(当研究所 研究員)	6/18
	富士山科学講座4(応用編)	山本真也(当研究所 研究員) 長谷川達也(当研究所 研究管理幹)	9/24
	富士山科学講座5(応用編)	北原正彦(当研究所 副所長) 安田泰輔(当研究所 研究員)	10/22
	富士山科学講座6(応用編)	池口 仁(当研究所 主任研究員) 山本清龍(岩手大学農学部准教授 元当研究所客員研究員)	11/19
	臨地講座 1つを選択 野鳥観察会 山野草観察会 富士山五合目植物観察会	渡辺信介・水越文孝・中川雄三(日本野鳥の会富士山麓支部) 戸沢一宏(森林総合研究所主任研究員) 丸田恵美子(神奈川大学教授) 山村靖夫(茨城大学教授 当研究所客員研究員)	5/7 5/15 7/23・7/28
	富士山火山観察会	中野隆志(当研究所 主幹研究員) 安田泰輔(当研究所 研究員) 内山 高(当研究所 主幹研究員) 吉本充宏(当研究所 主任研究員) 山本真也(当研究所 研究員) 常松佳恵(当研究所 研究員) 馬場 章(当研究所 研究員)	8/28・9/1
選択講座	スキルアップセミナー 机上講座(4講座 ~)から2つを選択 「火山と地震の関係」 「生育限界付近の植生を訪ねて」 「富士山の気象特性とリスク」 「インタープリテーション入門」	鶴川元雄(日本大学文理学部 教授) 岡 秀一(元首都大学東京都市環境科学研究科 准教授) 猪熊隆之(株式会社ヤマテン 代表取締役) 長谷川幸子(一般社団法人日本インタープリテーション協会理事)	12/3 1/14 2/11 3/11
	研究成果発表会 必ず選択		2/25
	修了式	修了証書授与	3/11

自然解説員育成研修(受講生:7名)

種別	内容	講師	実施日
説明会	説明会・育成研修の確認	環境教育スタッフ	4/10
基礎講座	インタープリテーション概論	環境教育スタッフ	4/10
臨地講座	森のガイドウォークへの参加 臨地講座(1)(2)(春2回)、 臨地講座(3)(4)(夏秋2回)の参加	自然解説員(ボランティアガイド)	4/29~5/29 7/9~8/28、 9/3~10/10
演習講座	演習講座(1)「10分プログラムの作成」	環境教育スタッフ	6/18
	演習講座(2)「10分プログラムの実施」	環境教育スタッフ	7/24
	演習講座(3)「50分プログラムの作成」	環境教育スタッフ	8/20
	演習講座(4)「50分プログラムの実施」	環境教育スタッフ	9/24
	演習講座(5)「50分プログラムの実施」	環境教育スタッフ、自然解説員(ボランティアガイド)	11/5
まとめの会・修了式	修了証書授与	環境教育スタッフ	11/5

2 森林総合研究所における研修(森林環境総務課)

林業従事者や後継者、また将来の担い手となる者を対象に技術研修を行い、地域林業や森林・林業教育の中核的指導者となるよう人材養成を行っています。平成28年度の実績は次のとおりです。

(1) 専門研修(対象: 県、市町村及び森林組合職員 ほか)

研修教科	研修名及び内容	実施日	受講者数
森林計画	森林GISの効率的な活用に必要な基礎知識	H28.5.31	22
"	UAVを用いた地上観測技術	H28.6.9	30
"	市町村森林整備計画及び森林経営計画の基礎知識	H28.7.20	21
作業路網	林内路網の基礎知識	H28.9.13	5
"	森林作業道の計画・施工	H28.12.21	5
"	森林作業道作設オペレーター育成初級研修	H28.6.21 ~ H28.6.24	2
森林土木	保安林・林地開発制度の概要	H28.6.28	28
"	森林土木測量入門	H28.6.21, H28.6.22	12
"	法面緑化基礎研修	H28.7.26	6
"	公共土木施設点検のポイント	H28.7.27	10
森林環境教育	森林環境教育 - 安全な伐木・かかり木処理の指導方法 -	H28.12.6	3
普及指導	森林施業プランナー研修	H28.8.25	15
労働安全	労働災害の防止対策	H29.2.17	10
"	技術職員の安全管理(現場で被災しないために)	H28.11.24	16
育林・育種・森林整備	森林施業技術の基礎知識	H28.12.20	11
森林保護	ナラ枯れ被害の実態と対策 - 今からすべきこと -	H28.6.3	29
"	獣害対策の基礎知識	H29.3.3	13
環境保全	森林の多面的機能の基礎知識	H29.1.20	12
"	県有林の適切な森林管理において求められるもの(FSC関連研修)	H29.2.24	68
特用林産	特用林産の基礎知識とときのこ短木栽培実習	H29.3.22	4
木材加工・流通	木材利用の基礎知識	H29.3.6	8
"	木材の用途と品質	H29.1.17	15
"	バイオマスの利活用, 2016年後半版	H28.12.6	9
経営・機械	林業架線免許講習	H28.9.27 ~ H28.11.17	3
"	「架線系集材技術の基礎」(機械集材装置の運転に係る特別教育)	H28.11.7, H28.11.8	7
"	「林業安全作業指導」(チェーンソー&刈払機の取扱いに係る特別及び安全衛生教育)	H28.5.17, H28.5.18, H28.5.26	14
"	「林業安全作業指導」(チェーンソー&刈払機の取扱いに係る特別及び安全衛生教育)	H29.2.14, H29.2.15, H29.2.22	22
計			400

(2) 基礎研修(対象: 一般県民、教職員、新規参入希望者 ほか)

研修名	内容	実施日	受講者数
「教員指導者養成研修」(身近な自然の指導法研修会)	「植物と親しむ(押し葉標本作り)」 「森林・林業の基礎知識」 「森林と人との関わり方」	H28.7.26	18
「教員指導者養成研修」(環境とものづくり研修会)	「森林・林業・木材の基礎知識」 「木工作入門」 ・木材の性質について ・木工作道具の使用方法 ・製作技法の基礎知識 ・木工作業の計画方法	H28.7.29	21
計			39

(3) 技能者養成研修(対象: 林業従事者)

研修教科	内容	実施日	受講者数
路網開設	路網の種類と目的(3年目) 安全な路網開設・維持作業	H28.6.14 ~ H28.6.16	8
森林整備	安全なかかり木等処理作業(3年目)	H28.6.28, H28.6.29	8
森林調査	GPS測量の方法(2年目)	H28.7.12	6
現場管理	道具・資材のメンテナンス(2年目)	H28.7.28	6
素材生産	効率的な高性能林業機械の使い方 高性能林業機械操作の検証(3年目)	H28.7.20 ~ H28.7.22	8
現場管理	車両系高性能林業機械のメンテナンス 架線系高性能林業機械のメンテナンス 機械類の管理手法(3年目)	H28.8.3 ~ H28.8.5	8
森林整備	森林施業の体系 森林整備の省力化・低コスト化作業(3年目)	H28.8.3, H28.9.15	8
素材生産	木材流通と木材利用 木材の特性 安全な素材生産作業の確認(3年目)	H28.9.6, H28.9.7	8
現場管理	刈払機のメンテナンス チェーンソーのメンテナンス(2年目)	H28.10.6	6
林業機械	「機械集材装置の運転の業務に係る特別教育」(2年目)	H28.11.1, H28.11.2	5
計			71

5 - 3 環境に関する活動の展開

1 参加と連携による環境活動(森林環境総務課)

環境の保全と創造を図るためには、私たち一人ひとりが人間と環境との関わりについての理解と認識を深めるとともに、県民・事業者・民間団体・行政等がそれぞれの主体の特性を活かし、互いに補完しながら、連携して取り組む必要があります。

県では、「やまなし環境月間」や「環境フォーラムinやまなし」の開催などを通じて、県民の環境保全への意識の高揚を図っているほか、環境保全実践活動の展開を支援・促進するため、「環境保全活動支援事業費補助金」(平成19年度～)により、市町村(一部事務組合も含む)やNPO法人などの公共的団体などが実施する環境保全事業に対して補助を行うとともに、地域の民間団体等が開催する環境問題に関する講演会や学習会等に対して講師を派遣する「環境学習指導者派遣事業(やまなしエコティーチャー)」(平成21年度～、平成7年度から平成20年度までは「環境アドバイザー派遣事業」)を実施し、地域の環境保全活動を支援しています。さらに、これらの活動が日常生活の中に定着していくことを目的として、環境美化活動に取り組む一斉活動日を設け、やまなしクリーンキャンペーン(平成8年度～)を提唱、実施しています。

(1)平成 28 年度環境保全活動支援事業費補助金(森林環境総務課)

交付先 市町村名	事業内容	交付先 市町村名	事業内容
甲府市	・太陽エネルギー体験教室	南アルプス市	・リサイクルステーションの整備
	・キッズ!S O14000プログラム		・わくわくエコチャレンジ事業
	・保育所・幼稚園における環境教育事業	昭和町	・エコしょうわ及び環境保全推進大会の開催
	・環境教育プログラムの実施	山梨市	・キッズ!S O14000プログラム
	・環境教育副読本の作成		・エコキッズ養成塾
	・緑のカーテンの実施	・ごみ減量啓発缶バッジ作成	
韮崎市	・環境講座の開催	富士川町	・リサイクルステーションの整備
	・リサイクル探検隊の開催	身延町	・「緑のカーテン」を利用した環境学習会等の開催
	・キッズ!S O14000プログラム	大月市	・地域美化活動の推進
	・緑のカーテン設置事業	富士河口湖町	・リサイクルステーションの整備
	・生ごみの水切り普及啓発		
	・食ロス啓発事業		

(2)やまなしクリーンキャンペーン(森林環境総務課)

県では平成8年度から、子供から高齢者まで県民参加による環境美化のための一斉活動日を提唱し、私たちが日頃から慣れ親しみ愛着のある身近な環境での全県一斉クリーンキャンペーンを展開しています。

平成28年度は、一斉活動を年6回実施しました(5月30日、7月30日、9月30日、11月30日、1月30日、3月30日)。

(3)やまなし環境月間(5月30日～6月30日)における取り組み(森林環境総務課)

環境基本法においても定められた「環境の日(6月5日)」を中心として、環境美化の日(5月30日、ゴミゼロの日)から6月末までを「やまなし環境月間」とし、環境保全に向けた各種行事を実施しています。

平成28年度環境月間行事

行事名	概要	主催
やまなしクリーンキャンペーン	子供から高齢者まで県民が参加して、日頃から慣れ親しんでいる身近な場所の環境美化に取り組む一斉活動を行った。	山梨県、市町村
ごみ減量・リサイクル推進キャンペーン	県内主要地域において啓発物品を配布し、ごみの減量とリサイクルの推進を呼びかけた。	山梨県、市町村
環境フォーラム in やまなし	やまなし環境月間の中心行事として実施。環境問題を楽しく学ぶため、じっさい氏を招き「エコパフォーマンスショー」による記念講演を行った。また、山梨県環境保全功績者表彰として、環境保全に関する県民等の意識の啓発、高揚を図るため、地域の環境保全に顕著な功績のあった者を知事表彰した。	山梨県
環境情報コーナー	一般県民が多く利用する公共施設等において、環境に関する資料・パネル等を展示し、環境問題への意識啓発を図った。	山梨県
環境保全のための新聞広告掲載	環境保全の意識啓発を図るため、新聞広告を掲載した。	山梨県
新聞・広報誌等による広報	新聞・広報誌等により、環境保全・美化運動への参加を呼びかけた。	山梨県

(4)「やまなし森づくりコミッション」の支援(みどり自然課)

企業や団体、県民参加の森づくりを推進するため、こうした森づくりの活動をサポートする組織として、平成19年8月に県と森林・林業、環境関係の25団体により設立された、「やまなし森づくりコミッション」への支援を行いました。(コミッション事務局は、(公財)山梨県緑化推進機構)

森づくり活動の支援

・企業・団体の森づくりの推進：森林整備協定の締結、森づくり活動への参加に関する相談、活動資材の提供、森づくりに関する講師の派遣、森づくりイベントの紹介、森づくり活動の企画・立案への協力ほか

「エコプロダクツ2016」への出展

・期間：平成28年12月8日～10日

・場所：東京都江東区・東京ビッグサイト

コミッションと企業の森づくり活動等の紹介

ホームページURL:

<http://www.y-forest-commission.jp/>

「山梨県庁のホームページ」 「組織から探す」 「森林環境部」

「みどり自然課」 「やまなし森づくりコミッション」

(5)CO₂吸収認証制度(みどり自然課)

地球温暖化防止や水資源の^{かん}涵養など、森林の多面的な役割に対する県民の関心や、企業・団体の社会貢献活動としての森づくり活動に対する関心が高まっています。県では、企業・団体の森づくりへの参加促進と、より多くの県民が森づくり活動の効果に関心を持つ契機とするため、県内で森づくり活動を行う企業・団体の森づくり活動によるCO₂吸収量を認証する「やまなしの森づくり・CO₂吸収認証制度」を推進しています(平成28年度CO₂吸収認証：13件、171.8t-CO₂/年)。

t-CO₂(二酸化炭素トン)：二酸化炭素の重さで、1t分の二酸化炭素(t-CO₂)は、体積にすると546m³、25mプール1杯分に相当。

(6) やまなし土木施設環境ボランティアの推進(道路管理課・治水課・都市計画課)

やまなし土木施設環境ボランティア推進事業は、自治会、老人クラブ、商店会、住民の有志等地域住民団体並びに企業、学校等及びその従業員、児童生徒等の団体の代表者が、公共施設を所管する建設事務所長に環境ボランティア届けを提出、県及び市町村との三者で合意書を取り交わし、県が管理している道路、河川、公園施設の清掃、除雪、除草、草花の植栽等の美化活動をする制度です。

県では、この事業を支援するため、美化活動に必要なカンナ、鍬、ゴミ袋等の清掃用具、安全確保のための簡易バリケード等を支給するほか、活動中の事故に備えてボランティア保険に加入します。平成15年9月より募集を開始し、平成15年度末で16団体であった合意団体は、平成28年度末で99団体となっており、土木施設の維持管理及び地域の環境に対する住民意識の高揚を図り、快適なまちづくりを推進しています。

(7) 山梨県環境保全基金(森林環境総務課)

県民、事業者等に対する環境の保全に関する知識の普及、実践活動の支援、地域に根ざした環境保全活動を推進することにより、県土の環境の保全を図るため、平成2年3月27日に「山梨県環境保全基金条例(以下「基金条例」という。)」を公布・施行し、基金条例に基づく山梨県環境保全基金(以下「基金」という。)を設置しました。

基金の額

平成元年度に国の地域環境保全対策費補助金及び地方交付税交付金による財源措置を各2億円受け4億円とし、平成3年度には県が4億円を増額、平成28年度末現在約8億900万円となっています。

基金運用益の処理

基金の運用から生ずる収益は、毎年度の歳入歳出予算に計上し、基金の設置の目的を達成するために必要な経費の財源に充て、平成28年度は運用益約685万円を活用し、次の事業を実施しました。

- | |
|---|
| ア やまなし環境月間
環境月間及び環境の日の新聞広告掲出及び環境フォーラムの実施等 |
| イ 環境保全活動支援事業費補助金
市町村等が実施する環境の保全と創造に関する事業に対する補助 |

5 - 4 協働取組の促進

1 県民・事業者・行政のパートナーシップの構築

(1) 環境パートナーシップやまなし(森林環境総務課)

目的・概要

環境保全のための活動は、個人から各種団体まで規模や活動内容が多様化しており、団体間の連携や情報交換の場づくりが求められています。そこで、県民・事業者・行政のパートナーシップ(協働)のもと、自主的な環境保全活動を積極的に展開していくことを目的とし、平成9年6月5日、環境パートナーシップやまなし(会長:坂本 政彦 (一社)山梨県トラック協会会長)が設立されました。

事業内容

活動情報の交換及びネットワークづくりのための事業

・広報誌の発行(年4回)

3R推進・温暖化対策のための事業

・「エコライフお絵かき・川柳コンテスト2016」の実施

・「やまなし環境活動推進ネットワークフォーラム」の開催

・県民の日記念行事への出展

県事業との協働

・やまなしクリーンキャンペーンの共催など

(2) 山梨県ノーレジ袋推進連絡協議会(エネルギー政策課)

目的・概要

レジ袋を削減するための方策やレジ袋削減についての意識啓発等を行うため、事業者、消費者団体、行政等を構成メンバーとして、平成19年8月31日に山梨県ノーレジ袋推進連絡協議会(会長:金子栄廣 山梨大学教授)が設立されました。

事業内容

平成20年度から、レジ袋の無料配布を中止することにより、レジ袋を削減する運動を実施しています。

この運動を推進するため、事業者、消費者団体、商工団体、山梨県及び市町村と「山梨県におけるマイバッグ等の持参促進及びレジ袋削減に関する協定」を締結しています。

この協定に基づき、県内の主なスーパーマーケットやクリーニング店等でレジ袋の無料配布を中止しています。

・マイバッグ持参率とレジ袋の削減効果(平成20年7月～平成29年3月)

マイバッグ持参率	86.4%	レジ袋削減重量	8,133トン
レジ袋辞退者	50,004万人	原油削減量	15,770KL
レジ袋辞退枚数	69,763万枚	二酸化炭素削減量	37,621トン

・平成20年6月10日 第1回協定締結 18事業者 107店舗

株式会社アマノ	生活協同組合パルシステム山梨	株式会社深澤商事
株式会社いちやまmart	巨摩野農業協同組合	株式会社富士急百貨店
株式会社イトーヨーカ堂	株式会社さえき	マックスバリュ東海株式会社
株式会社オギノ	生活協同組合ユーコープ (生活協同組合市民生協やまなし)	株式会社山交百貨店
株式会社かわすみ	株式会社セルバ	株式会社やまと
株式会社公正屋	株式会社日向	ユニー株式会社

・平成20年11月6日 第2回協定締結 8事業者 10店舗

株式会社グルメシティ関東	株式会社トライアルカンパニー	山梨県立大学生生活協同組合
有限会社スーパーかわぐち	株式会社ひまわり市場	山梨大学生生活協同組合
株式会社ダイエー	企業組合ワーカーズコレクティブパクぱく	

・平成 21 年 5 月 26 日 第 3 回協定締結 11 事業者 1 組合 347 店舗

株式会社マルシNSTア-	有限会社サンククリーニング	株式会社クリーニングすわん
双葉農の駅企業組合	株式会社オスカー	株式会社ホワイト急便山梨
梨北農業協同組合	有限会社鈴屋リネンサプライ	山梨県クリーニング生活衛生同業組合
ふじかわ農業協同組合	株式会社クリーニング志村	株式会社ヨンマルサン

・平成 22 年 9 月 1 日 第 4 回協定締結 1 事業者 1 店舗

株式会社ベイシア

・平成 23 年 2 月 27 日 第 5 回協定締結 1 事業者 1 店舗

イオンリテール株式会社

・平成 23 年 6 月 7 日 第 6 回協定締結 2 事業者 2 店舗

株式会社白根

株式会社有機村

・平成 28 年 2 月 12 日 第 7 回協定締結 1 事業者 1 店舗

株式会社バローホールディングス

・平成 28 年 6 月 3 日 第 8 回協定締結 1 事業者 1 店舗

イオンリテールストア株式会社

企業組合ワーカーズコレクティブバクばくは、平成 22 年 7 月で対象店舗閉店。

株式会社グルメシティ関東は平成 24 年 5 月、株式会社マルシNSTア-は平成 24 年 9 月、株式会社日向は平成 25 年 1 月で対象店舗閉店。

株式会社トライアルカンパニーは平成 25 年 6 月で協定から脱退、株式会社富士急百貨店は平成 25 年 12 月、株式会社深澤商事は平成 26 年 4 月で対象店舗閉店。

株式会社ヨンマルサンは平成 27 年 6 月、有限会社サンククリーニングは平成 28 年 7 月で協定から脱退。

(3) 環境に関する企業連絡協議会 (森林環境総務課)

「企業の抱える環境問題」を解決するため、県内の企業154社(平成29年3月現在)で構成している環境に関する企業連絡協議会(平成28年度会長:新藤 中 (株)山梨中央銀行 代表取締役頭取)では、次の活動を行っています。

- ・環境に関する啓発活動の実施、各種取り組みへの参加
- ・各種環境研修会の開催
- ・環境美化活動の実施
- ・他の環境団体との連携

2 民間団体の環境保全活動への支援(森林環境総務課)

(1) 公益財団法人やまなし環境財団

「やまなし環境財団」は、山梨県が民間の篤志家からの寄付をもとに、環境保全に向けた県民の意識の醸成を図るとともに、民間団体の自発的な環境保全への取り組みを支援することを目的に設立したものです。

財団の概要

- ・設立年月日 平成9年11月20日
- ・基本財産 4億8,286万8,927円(平成29年3月31日現在)
- ・所在地 甲府市丸の内1-6-1(森林環境総務課内)

・理事長 保坂 公敏（森林環境部長）

財団の事業内容（平成10年度から実施）

ア 環境保全活動支援助成事業

県内で環境保全活動をしている民間団体等が行う実践活動、普及啓発活動、調査・研究活動などに助成する。

（助成内容）

スタートアップ助成:新たに開始又は開始後3年未満の団体の活動(助成率10/10以内で20万円を限度)

ステップアップ助成:環境保全活動を開始後3年以上行っている団体等の活動に対して助成

・助成率1/2以内で50万円を限度(助成期間10年間を限度)

・助成率1/2以内で15万円を限度(助成期間11年目から3年間を限度)

実績:平成28年度:スタートアップ助成7団体、ステップアップ助成23団体 4,719,000円を助成

イ 「若宮賞」表彰事業

優れた環境保全活動を行っている個人、団体を表彰(本財団の設立に御協力いただいた方の名前を記念し「若宮賞」としている)。

表彰対象:概ね2~3年以上継続して行っている環境保全に関する実践活動で、清掃美化、ごみ減量化・リサイクル、大気・水質浄化、環境教育等に関する活動を対象。

(平成28年度 3個人3団体表彰)

ウ やまなし環境活動推進ネットワークフォーラムの開催

環境保全活動に取り組む民間団体等に交流の場を提供し、環境パートナーシップやまなしとの共催で、参加者の相互理解とネットワークの形成を目的に開催。

実績:平成28年度 平成29年1月29日 ぴゅあ総合(男女共同参画推進センター)で開催

エ 情報提供事業

財団の事業や活動団体の紹介、県や活動団体等から寄せられた情報等を掲載するホームページを作成し情報発信するとともに、メールによる情報提供を行う。

オ 温暖化防止対策支援事業

山梨県地球温暖化防止活動推進センターに事業を委託し、実効性の高い効果的な地球温暖化防止対策の普及啓発や環境教育を実施する(委託事業内容:温暖化防止の相談窓口設置業務、温暖化防止教室開催業務、情報発信業務)。

3 桂川・相模川流域環境の保全(森林環境総務課、富士・東部林務環境事務所)

相模川は、その源流を山中湖に発し、山梨県内では桂川と呼ばれ、神奈川県に入ってから相模川と名前を変え、相模ダム(相模湖)、城山ダム(津久井湖)を経て、平塚市で相模湾に注ぐ全長113kmの一級河川です。両県の県民に過去から現在まで多くの恵みを与え続けている桂川・相模川の流域環境を、将来の世代にかけがえのない資産として引き継いでいくため、上流部の山梨県と下流部の神奈川県が流域に与えている環境負荷や、その改善のために果たすべき役割を認識したうえで、県域を越えて、流域の市町村、住民、企業等と一体となって、流域環境の保全に取り組むことを目的に、平成7年9月から両県の共同事業として「桂川・相模川流域環境保全推進事業」を開始しました。

この事業では、平成9年度までの3か年に、問題提起と合意形成を図るための流域シンポジウムや流域サミットを開催するとともに、流域の住民や市民団体・事業者・市町村等と一体となったクリーンキャンペーン、住民参加型環境調査、パートナーシップ交流等を実施し、併せて流域の全体像を把握するための流域環境基礎調査や流域環境の保全に関する住民意識調査を実施しました。

これらの事業成果を踏まえ、事業の最終年度となる平成9年度には、流域全体の環境保全のための推進母体として、流域の市町村や市民団体、企業等で構成する流域協議会を設置(平成10年1月20日)し、平成10年1月31日行動計画となる「アジェンダ21桂川・相模川」を策定しました。平成10年度からは、この流域協議会として活動を進めています。平成28年度の主な事業の実施状況は次のとおりです。

(1)クリーンキャンペーンの実施

流域で行われるクリーンキャンペーンの情報を集め、広く県民等に周知することにより環境保全活動への参加を促すとともに、簡易水質検査や水生生物調査等を行い、水質保全をはじめとする流域環境保全の重要性について啓発を行った。

- ・実施箇所 山中湖から相模川河口までの35か所
- ・参加人数 35,405人
- ・実施内容 ごみ清掃、簡易水質調査、水生生物調査等

(2)流域シンポジウムの開催

「桂川から相模川へ 清く豊かに川は流れる～森は海の恋人～」をテーマに、山梨県大月市において開催。第1部では、畠山重篤氏による講演が行われ、「森を守ることが豊かな恵みをもたらす海を守る」という理念に基づく活動の実践事例や課題等について説明がされた。第2部では、3つの分科会に分かれて、各団体から活動内容の報告等が行われた。

- ・開催日 平成28年11月27日
- ・開催場所 ソレイユさがみ(神奈川県相模原市)
- ・参加者 約180人
- ・内容 (基調講演)東京大学名誉教授 養老孟司氏「～せいかいはちがいできている～」
(活動報告)「富士山の恵みの湧水群の保全活動」
「市街地に残された貴重な谷戸を保全再生する活動」
「河岸段丘沿いの農業用水に自生するゲンジボタルの保護活動」
「目久尻川 自然環境保全の独自活動と流域全体に渡る活動紹介」
「相模原市緑区藤野地区からの報告」
「生物多様性の活動のつながり」

(3)環境調査事業の実施

ア 身近な水環境の一斉調査

第13回「身近な水環境の全国一斉調査」に参加した。一斉調査日である6月5日を中心に、流域内外の124地点で調査を実施し、結果をとりまとめた。

イ 地下水・湧水調査

道志村及び桂川中流域(上野原市、大月市、都留市)の地下水利用・湧水地点の現状等について調査を実施した。

ウ 相模川支流溪流の生態系回復事業

相模川溪流の生態系保全の検討として、山梨県の砂防事業についての研修会を開催した。